

道路・橋梁の維持管理に関する技術力を高めようと、パキスタンの技術者が8日、岡山市のエイト日本技術開発を訪れた。国際協力機構（JICA）が実施している研修プログラムの一環で、コンサルタントによる品質管理やサステナビリティの取

トマネジメントシステム能力向上プロジェクト」を実施しており、日本での研修を含む業務を「in Map」などを紹介した。会場には自動航行する浅水型小型AUV（自律型無人潜水機）やボート型ドローンを展示。V

同日の研修では、エイト日本技術開発で先進的かつ革新的技

R（仮想現実）デバイスを活用

パキスタン技術者が橋梁維持管理技術学ぶ

り組みを学んだほか、水上・水中のドローンなど最新の計測機材やサービスについて説明を受けた。

術の開発などを担うフアノベイトラボ（Fラボ）に所属するスバシュ・クマル・サハ技師が講師を務め、インフラ点検を効率化する技術を説明。全天球画像（360度写真）と3Dモデルを組み合わせ、現地のイメージを視覚化するシステム「Eye-Con 360」や土木構造物

同社を訪れたのは、パンジャブ州公共事業局の技術者ら12人。JICAが同州から要請を受け、2022年11月から「パンジャブ州における道路アセッ

パキスタンの技術者は2日に来日。JICA関西センター（神戸市中央区）や大阪府八尾市などで研修を受けた。9日から長崎県庁や長崎大学を訪れ、14日は阪神高速道路の建設現場

JICA 研修プログラムの一環 エイト日技で講義



スバシュ技師が最新技術を説明

を視察。現場での品質管理や安全管理を学ぶ。パシフィックコンサルタンツでの講義なども行われ、一行は17日に帰国する予定。同プロジェクトは11月まで実施される。

